

# 9年間を見通した カリキュラムを一層推進!

市では、小中学校の9年間を一貫したカリキュラムで教育を行う「小中一貫教育」須賀川モデルを、全ての中学校区で進めています。昨年4月に開校した本市初の施設一体型小中一貫教育校「稲田学園」を含め、3つの中学校区の取り組みを紹介します。



「いなだっ子集会」で交流する子どもたち

**県内外から注目を集める「施設一体型」の取り組み**  
—稲田学園—

学年を「1年生」から「9年生」と呼び、小中学生が一つの校舎で一緒に学習しています。その利点を生かし、入学式や文化祭、異学年交流「いなだっ子集会」などを合同で行っています。その結果、小中学生が中学生に憧れをもって頑張る姿、中学生が小学生を優しくサポートする姿が、以前よりも多く見られるようになりました。

職員室も一つで、中学校教員が小学生の授業を受け持ったり、小学生から教科担任制の一部取り入れたりして、学習面でも先進的なシステムを導入しています。クラブ・部

学校教育課 ☎(88)9168

活動などでも小中学生ともに全国大会、東北大会に出場するなど活躍しています。開校1年目ですが、北海道をはじめ県内外から大勢の人が視察に訪れるなど、大変注目されています。

**先生も小中合同で研修「協同的な学び」を展開**  
—第三中学校区—



第三中の授業研究の様子

学校が隣接している第三小

と第三中では、「協同的な学び」をテーマに小中をつなぐ教育を進めています。

昨年6月には、第三小に東京大学大学院教授の秋田喜代美先生を招き授業研究会を行い、9月には、第三中に東京大学名誉教授の佐藤学先生を招き研究会を行いました。授業研究会では、第三小は4年生の外国語の活動、第三中は2年生の英語の授業を公開して意見交換を行いました。よりよい授業のあり方や小中の役割を確認することで、学力向上につながっています。

**「幼・小・中・高」の教育を地域ぐるみでサポート**  
—長沼中学校区—

長沼小、長沼東小、長沼中は、長沼幼稚園、県立長沼高校との「長沼地区4校1園連携事業」を展開しています。学力を身に付け、豊かな心、健康な身体を育むために、小学校入学前と小中学校の9年間で大切なことをパンフレットにまとめて取り組んでいます。高校進学後に必要な心構えを含んだ内容で、「分かりやすく役に立つ」と好評です。

また、長沼地区は伝統的に地域ぐるみで子どもを育成することを重視しています。幼稚園から高校生まで、様々な機会を捉え、地域の皆さんと各園各校が協力して人材育成に努めています。

「長沼まつり」には、小学生は「金魚ねぶた」、中学生は「ねぶた」、高校生は「ねぶた」を自分たちで作製して毎年参加し、大いに祭りを盛り上げています。長沼地区における学校と地域の連携によるこの教育活動は、「小中一貫教育」須賀川モデルの今後の指針になっています。



「長沼まつり」に参加する長沼中の生徒たち



1月23日、郡山市で「こおりやま広域圏」の15市町村長により連携協約の締結式が行われました

新しい「圏」、誕生。こおりやま広域圏の連携協約を締結

## 「広め合う、高め合う、助け合う」関係構築へ

One for all, All for one !

企画財政課 ☎(88)9111



**構成市町村**  
郡山市・須賀川市・田村市・本宮市・大玉村・鏡石町・天栄村・猪苗代町・石川町・玉川村・平田村・浅川町・古殿町・三春町・小野町

1月23日、こおりやま広域圏連携中核都市圏(こおりやま広域圏)の形成に向け、本市を含めた14市町村が、中心市である郡山市とそれぞれ連携協約を締結しました。

**地域経済の維持と安心・快適な暮らしを**

人口減少・少子高齢社会であつても、活力ある地域経済を維持するとともに、住民が安心して快適な暮らしを営むことができる圏域を形成することを目的としています。

### ● 具体的な取り組み

次の3つの取り組みを、連携・横断的に推進します。

- ① **経済成長のけん引**
  - (1) 産学官民一体となった経済成長の推進体制の構築
  - (2) 新規創業の促進及び地域産業の振興
  - (3) 地域資源を活用した地域経済の裾野拡大
  - (4) 戦略的な観光施策の推進
- ② **高次の都市機能の集積・強化**
  - (1) 高度な医療サービスの提供
  - (2) 高度な中心拠点の整備・広域的公共交通網の構築
  - (3) 高等教育・研究開発の環境整備
- ③ **生活関連機能サービスの向上**
  - (1) 地域医療・福祉・子育ての充実
  - (2) 教育・文化・スポーツの振興
  - (3) 広域的な土地利用の促進
  - (4) 地域振興
  - (5) 災害対策・住民の安全安心確保
  - (6) 環境対策の推進
  - (7) 地域公共交通の充実
  - (8) ICTインフラの整備
  - (9) 道路等の社会インフラの整備・維持
  - (10) 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消
  - (11) 圏域内外の住民との交流・移住促進
  - (12) 圏域マネジメント能力の強化

### 将来人口の目標

国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に基づき、郡山市が試算した2040年のこおりやま広域圏の推計人口は45万7278人です。圏域が人口流出を防ぐため、目標人口を52万7718人とし、長期的にも50万人規模を維持していくことを目指します。

### 3月までに

### 都市圏ビジョンを策定

こおりやま広域圏の将来像を示す「都市圏ビジョン」を、パブリックコメントや都市圏ビジョン懇談会の意見を踏まえ、3月までに策定する予定です。来年度からは、都市圏ビジョンに基づく具体的な取り組みを開始します。